

首里城の早期再建を求める意見書

去る 10 月 31 日未明に発生した火災により、琉球王国の歴史と文化の象徴である正殿をはじめとする首里城の主要な施設を焼失するという甚大な被害がありました。

平成の時代に再建された首里城は、沖縄県民の拠り所であるとともに、歴史的に首里と縁の深い本市もまた、大きな衝撃と深い悲しみを多くの県民と分かちあうとともに、関係各位に対し心からお見舞い申し上げているところであります。

浦添は、琉球王朝統一以前の古い都で、古琉球の時代「うらおそい」と呼ばれ、首里とともに中心地でした。浦添の名称は、首里城正殿の正式名「百浦添御殿（ももうらそえうどうん）」にその名が継がれています。首里の王たちは浦添の舜天から代々その王位を数え、浦添とのつながりを忘れることはありませんでした。浦添出身の尚寧王は浦添―首里間の道を整備し、二つの地域の交流はさらに密になり、浦添と首里双方の存在なくして沖縄の歴史・文化を考えることはできません。

首里城の再建については、政府からは全力で取り組むとの心強い表明がなされ、沖縄県は部局横断のプロジェクトチームを立ち上げて復興に向けた強い決意が表明されております。

正殿「百浦添御殿（ももうらそえうどうん）」他施設の速やかなる再建は、沖縄県民をはじめ、沖縄の歴史と文化に心を寄せる多くの方々の願いであります。

再建にあたっては、多大なる経費はもとより様々な資材の調達・確保、職人の育成など、多くの解決すべき課題があります。

政府においては、それらの課題を解決するとともに早期再建に向けて、取り組まれますよう要望します。

記

- 1 焼失した原因を調査し、以後火災を発生させないよう消火設備の充実及び防火対策を図ること
- 2 再建にあたり、1986 年より始められた復元事業における調査・研究と往時の材料や工法でもって実施すること

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出する。

令和元年 12 月 19 日

沖縄県浦添市議会

宛先

衆議院議長 参議院議長 内閣総理大臣 内閣官房長官 国土交通大臣
沖縄及び北方対策担当大臣 文部科学大臣 文化庁長官 沖縄県知事